サポートグループ参加遺族のビリーブメントリスク

BRAT 日本語版によるアセスメント

○坂口 幸弘

(関西学院大学人間福祉学部)

キーワード: 遺族、アセスメント、ビリーブメントリスク

Bereavement risk among bereaved relatives who participated in support groups: Assessment by BRAT Japanese version

Yukihiro SAKAGUCHI

(School of Human Welfare Studies, Kwansei Gakuin Univ.)

Key Words: bereaved relative, assessment, bereavement risk

目 的

遺族への支援や介入の効果は、全ての遺族に一律にみられるのではなく、不適応的な遺族に対象を絞った場合に、効果が認められるとされる¹⁾。したがって、有効かつ効率的な遺族への支援を行うためには、遺族のリスクに応じたプログラムを提供することが重要であり、そのためのアセスメントが必要であると考えられている²⁾。

Bereavement Risk Assessment Tool (以下、BRAT) は、カナダの Victoria Hospice で開発されたアセスメントツールである。BRAT のアセスメントシートは 40 項目で構成されており(表 1)、患者の入院中あるいは在宅療養中からアセスメントし、早期から家族/遺族が抱える問題を予測することができる。BRAT の日本語訳版は、岩本・廣岡らによって作成され、実用化に向けての検討が行われている³⁾。

本研究の目的は、現在開発中の BRAT の日本語版を試行的に実施し、サポートグループに参加した遺族のリスクアセスメントを行うとともに、BRAT 日本語版の汎用性について検討することである。

方 法

アセスメントの対象とした遺族は、葬儀社が毎月開催している遺族のサポートグループへの参加者である。このサポートグループは、参加者同士が体験や思いを分かち合うことを通して、悲嘆のプロセスを進めることを目的とし、心理的支援の経験のあるスタッフがファシリテーターを務めている。

参加した遺族 20 名について、ファシリテーターを務めた 6 名のスタッフが分担して、BRAT 日本語版によるアセスメントを行った。各遺族につき 40 項目の各項目に設定されたリスク加重得点を累積加算し、トータルリスクスコアを算出し、リスクレベルを 5 段階で判定した。本研究は関西学院大学研究倫理委員会の承認を得ている。

対象となった遺族の背景として、故人の続柄は、遺族からみて夫が 12 名、妻が 4 名、母が 3 名、息子が 1 名であった。故人享年は 40～90 歳で平均 70.3 歳であった。

結 果

BRAT 日本語版によるトータルリスクスコアは 0～83 点で、平均 11.4 点であった。表 2 に示す通り、5 段階のリスクレベルのうち、レベル 5 が 1 名、レベル 4 が 3 名、レベル 3 が 5 名、レベル 2 が 8 名、レベル 1 が 3 名であった。

レベル 5 とレベル 4 の計 4 名のうち、3 名は「重度の精神疾患がある」に該当し、1 名は「患者または故人の親/保護者である」に該当した結果、高いリスクレベルと判定された。

レベル 5 の 1 名に関しては、「自殺を考えたことがある」「日常生活に強く影響を与えるほどの故人への思いやイメージが 3 か月以上続いている」「事件性のある死、あるいは、説明のつかない死」など多数の指標に該当していた。

表 1 BRAT 日本語版のリスク指標

項目数	内容
30 項目	死別前に判定できる個人や対人、取り巻く環境の特徴を評価する (例) 患者または故人の配偶者/パートナーである
6 項目	死の性質や個人に与える反応を評価する。死別後にのみ判定する (例) グリーフ感情を体験できない、または、死の現実を認められないことが 3 か月以上続いている
4 項目	ビリーブメントリスクを軽減する要因を評価する (例) 効果的に適応するために備え持っている信仰や信念

表 2 BRAT 日本語版によるリスクレベルの評定

リスクレベル	スコア	人数	割合
リスクレベル 1 (既知のリスクはない)	0	3 名	15%
リスクレベル 2 (最小リスク)	1-3	8 名	40%
リスクレベル 3 (低リスク)	4-15	5 名	25%
リスクレベル 4 (中リスク)	16-63	3 名	15%
リスクレベル 5 (高リスク)	64-	1 名	5%

レベル 3 の 5 名のうち 4 名は故人の配偶者であり、主たる介護者であると同時に、「最近、死別以外の喪失体験があった」「金銭面、生活面、健康面での問題がある」「死に対して心の準備ができていなかった」のいずれかに該当していた。

考 察

今回の結果から、当該サポートグループの参加遺族の全体像について議論することは早計であるが、リスクレベルは全体的に低い一方で、異なるリスクレベルの遺族が混在していることが示唆された。今後の課題として、リスクレベルに応じた形での支援方法の開発とその有効性の検証が挙げられる。今回の調査では、サポートグループ参加遺族において、精神疾患を抱えた方や複雑性悲嘆が疑われる方も散見されており、治療機関との連携も重要であるといえる。

BRAT はホスピスにて開発されたツールであるが、今回の対象者においてもリスクレベルの判別が確認されたことから、本ツールの汎用性が示唆される。今後、多様な遺族を対象に BRAT 日本語版の妥当性と有用性を検証していく必要がある。

引用文献

- 1) Currier, J. M., et al. (2008). The effectiveness of psychotherapeutic interventions for bereaved persons: A comprehensive quantitative review. *Psychological Bulletin*, **134**, 648-661.
- 2) Agnew A., et al. (2010). Bereavement needs assessment in specialist palliative care: a review of the literature. *Palliative Medicine*, **24**, 46-59.
- 3) 岩本・他 (2013). Bereavement Risk Assessment Tool (BRAT) 日本語版の実用化に向けたプレテストの実施. 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団調査・研究報告書, **12**, 9-16.